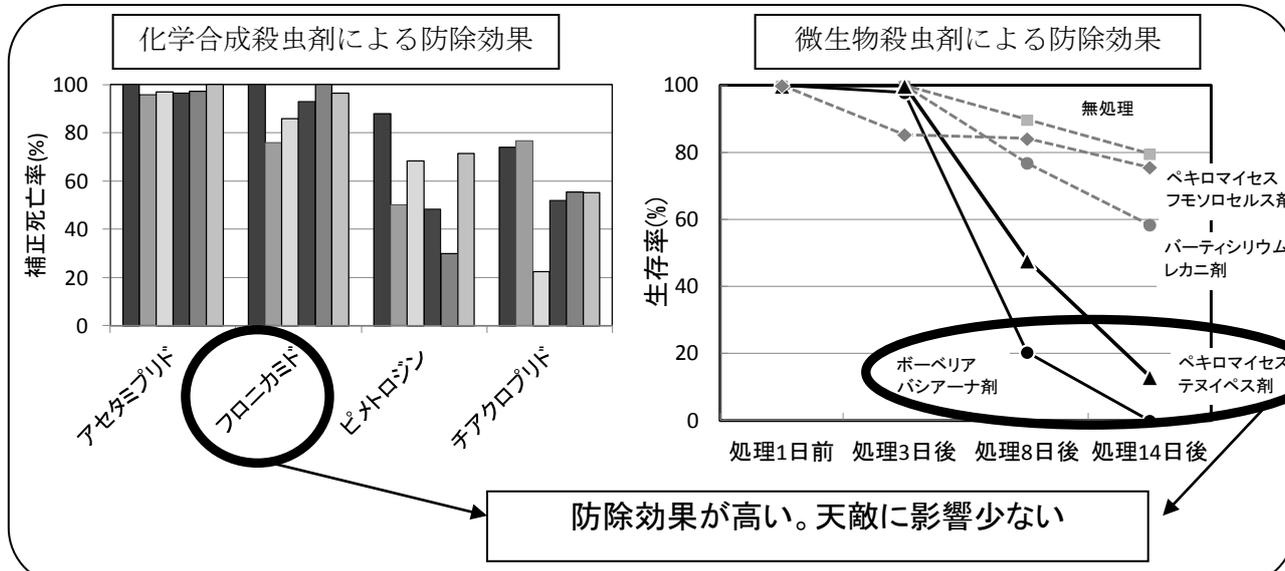
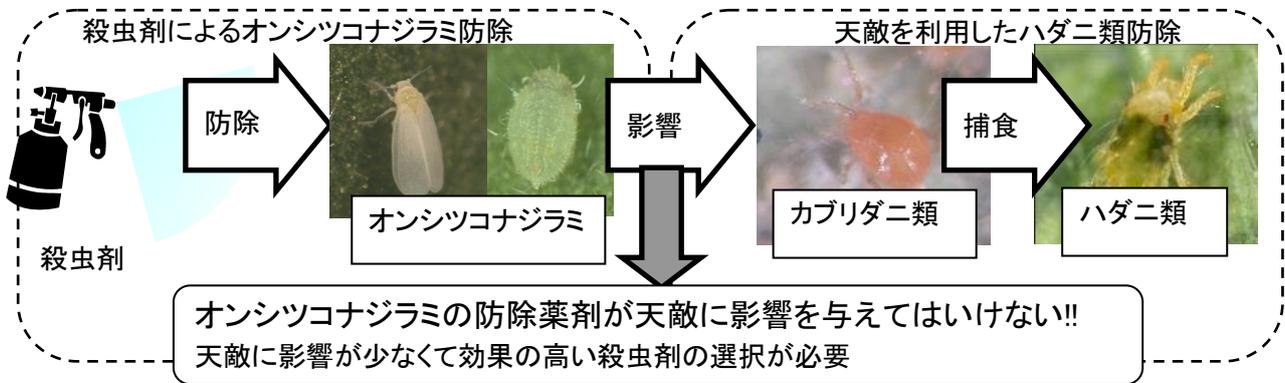


イチゴにおける天敵を利用した防除体系に影響が少ない オンシツコナジラミ防除

利用対象：天敵を利用しているイチゴ生産者、JA 営農指導員、普及指導員



ハダニ類防除にカブリダニ類を利用した防除体系の一例

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栽培管理	定植	マルチ	葉かき				
天敵放飼	天敵に影響がある。 粒剤施用なら影響少ない。		カブリダニ		カブリダニ	オンシツコナジラミ多発時は2回目散布 天敵に影響が少ない	
コナジラミ類防除		アセタミプリド粒剤	フロニカミド水和剤	天敵に影響が少ない	(微生物殺虫剤)	天敵に影響が少ない (微生物殺虫剤)	フロニカミド水和剤

1. 背景とこれまでの課題

三重県のイチゴでは、ハダニ類防除対策にカブリダニ類の導入が進み、一部の生産者はワタアブラムシ防除にコレマンアブラバチを利用するなど、天敵利用が普及しています。しかし、一方では、これまで殺虫剤散布により間接的に防除されていた害虫の発生が顕在化しています。その一例として、オンシツコナジラミが多発生し、排泄物で果実が汚れる被害が問題となっています。オンシツコナジラミの防除にあたり、天敵に影響が少ない殺虫剤の選択が求められています。

2. 成果の概要

- (1) 県内のイチゴほ場から採集したオンシツコナジラミ個体群に対する薬剤感受性検定の結果から、フロニカミド剤は幼虫、成虫に対し高い防除効果が得られ、その効果は県内の複数個体群でも安定して得られました。また、フロニカミド剤はカブリダニ類など天敵に影響が少ないこともわかっています。
- (2) イチゴ栽培ほ場で発生しているオンシツコナジラミ幼虫に対する防除効果は、登録のある 3 種類の微生物殺虫剤のうち、ボーベリア バシアーナ剤、ペキロマイセス テヌイペス剤の 2 剤の防除効果が安定しています。
- (3) ボーベリア バシアーナ剤もしくは、ペキロマイセス テヌイペス剤は、イチゴ灰色かび病防除に登録のある 4 種類の殺菌剤（イミノクタジンアルベシル酸塩・フェンヘキサミド剤、イブロジオン剤、フルジオキシニル剤、ペンチオピラド剤）と混用使用すると、オンシツコナジラミに対する防除効果が低下します。しかし、混用せずに処理 1 日後以降に殺菌剤散布する場合は、オンシツコナジラミに対する防除効果の低下はほとんど認められません。

3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

(1) ハダニ類防除に天敵を利用している生産者において、オンシツコナジラミの被害軽減を図ることができ収益性の向上につながることができます。

4. 普及上の留意点

- (1) 微生物殺虫剤の種類によっては、イチゴに薬害を生じる場合があるため注意が必要です。
- (2) 微生物殺虫剤を効果的に使用するには、夕方に散布して、散布後の施設内の湿度を高く管理する必要があります。

お問い合わせ先	農産物安全安心研究課 西野 実 電話 0598-42-6360 中央農業改良普及センター 水谷 義之 電話 0598-42-6715
参考になる資料	
研究実施予算	県単 イチゴの病害虫診断にかかわる技術開発 (2010～2012)